

3・11 福島現地闘争へ総決起しよう！

3・19 中山草津病院支部委員長、奪還へ！

● 3・19 中山奪還、草津病院で「反合理化・運転保安闘争」を推し進めよう！

草津病院では昨年9月の「放火事故」に続いて、今年2月には患者同士の「殺人未遂事故」というまたしても重大な事故が発生した。

いずれも営利優先の患者の詰め込みと要員不足が原因の安全崩壊だ。草津病院資本は、新自由主義医療政策として精神科救急病院を選択した。救急患者を急性期閉鎖病棟へどんどん受け入れる一方で、病床を回転させるために、未だ閉鎖病棟でしか対応できない病状の不安定な患者を、玉突き状態で開放病棟へ移した。救急病院化したにもかかわらず、業務に必要な要員を確保せず、評価制度の下で現場労働者に過重な労働を押し付けてきた。こんな状態が続けば必ず重大事故が起こると広島連帯ユニオン草津病院支部は一貫して指摘してきたが、病院当局は何ら有効な対応を取ってこなかった。しかも実際に相次いで起こってしまった重大事故にも、まったく責任を取らず居直っている。

必要なのは「労使一体の原因究明・再発防止」などではなく徹底した資本の責任追及、反合理化・安全闘争の実践だ。

広島連帯ユニオン草津病院支部の仲間、支部の団結の力で「事故の一切の責任は病院にある。経営は職場・病棟の安全に責任を取れ」と職場に訴えて、草津病院のすべての労働者(400人余)を獲得の対象に据えた組織拡大の闘いに取り組んでいる。

そして、3月19日、組合つぶしのデッチ上げ弾圧で獄中に捕らわれていた中山崇志草津病院支部委員長が、完黙・非転向を貫き、ついに勝利者として出獄する。

中山支部委員長への弾圧に対して草津病院支部は青年労働者を先頭とした組織拡大をかちとり、権力・資本に致命的な打撃を強制した。そして現下の新自由主義資本との攻防の真ただ中で中山支部委員長を戦列に取り戻すことの意味は極めて大きい。

さらなる組織拡大に向かって、全力でうって出よう。



星野同志奪還！徳島刑務所闘争のデモ終了後に医療・福祉の仲間とのスナップ。真ん中で『星野奪還』のメッセージボードを持っているのが中山崇志草津病院支部委員長（2012年2月5日 徳島市）
※「東京北部ユニオン・街分会HP」より転載

●中山奪還! 3・19山口現地行動

3月19日(火) 午前8時

山口刑務所・表門前 集合

山口市松美町 3-75

(TEL) 083-922-1450

JR山口線 湯田温泉駅 北東 600m

※ 山口現地で中山支部委員長と合流して、直ちに広島市内に戻り、広島にて慰労会を行います。参加希望の方は、中共会事務局(下記)まで連絡下さい。

090-7376-2887(奥村)



山口刑務所・表門↑



■ 2・23 春闘総決起集会へのアピール

中山崇志 (広島連帯ユニオン草津病院支部委員長)

昨年暮れに「日本をとりもどす」を合言葉に自民党・安倍政権が誕生しました。誕生してから『経済再生』と叫び10兆円の公共事業と「2%の物価上昇」するまで金融緩和し、デフレからインフレへかえようとしています。

この経済再生政策を「アベノミクス」と呼んでいます。しかしこの「アベノミクス」の本質は、1%の大資本の救済であり、自民党伝統の公共事業への金のバラまき以外のなものでもありません。昔の自民党政治への逆もどりなのです(経済以外にも「教育」「安保」「核や原発」など時代に逆行しています)。

「アベノミクス」によってインフレになろうが非正規労働者や正規労働者を低賃金でつかいすてるこの状況で、資本は賃金をあげるわけがありません。逆に、賃下げや合理化・民営化によって外注化がすすみ9割の非正規職化がすすみます。

この流れと我々、労働者階級が全面的に対決して勝利しなければならないのに、ナショナルセンターの連合など体制内労働組合は、はやばやと妥結点を模索しています。断じて許せません!

我々、闘う労働者・農漁民・学生そして闘う労働組合は、各職場・地域で、キャンパスで、団結してベースアップ・一時金支給率アップや諸要求を非和解で闘い抜き、ストライキなど実力闘争をもって13春闘を貫徹しよう!

その最先頭に青年労働者の闘いが必要です。1つ1つ苦闘しながら前へ前へ一歩ずつ、共に進みましょう。私も獄中から皆さんと共に闘います!(2013年2月23日)

中山さんを奪還したぞ! 中山さんの闘いを支える会費の納入をお願いします!

『無実の中山さんと共に闘う会』へのカンパをお願いします!

『草津病院支部の闘いは、まだまだ道半ばです。支部は、必ず職場生産点の職場支配権を握り、私は職場復帰をかちとります。』【中山崇志】

■年会費 1口=2,000円 支援カンパ(賛助金)は任意です

■郵便振替口座番号 01330-7-109491/加入者 広島連帯ユニオン

【問い合わせ】 〒731-0101 広島市安佐南区八木 4-2-5 TEL082-873-1446 広島連帯ユニオン

※HPアドレス: <https://sites.google.com/site/nakatmokai/>

◆中山さんからの手紙(2月)

●職場ビラ『医療の現場』の感想

現在、草津病院の安全が崩壊しているのは、平田事務部長(もみじ銀行出身)が草津病院の事務長に就任し、合理化・外注化・非正規職化が進み出してからだと思います。

病院経営を利益優先にした為に、職員・患者への安全・安心がないがしろにされ、この間の放火・自殺・殺人未遂と連続して事件がおこりました。

しかし、病院当局は、すべて現場の職員のニアミスや医療事故にして責任を押しつけようとしています。

すべての責任は評価制度・新賃金制度による要員不足と過重労働を放置している病院当局にあります。

私たち組合は、何度も安全・安心について団交をしてきました。現在も、放火事件への団交の最中で、そこに「患者間の殺人未遂事件」がおこったのです。

職場の安全・安心の問題に真摯にとりくまない病院当局の姿勢が、この連続事件ではっきりしたと思います。職場の安全・安心をつくる事ができるのは職員一人ひとりの声です。職員の安全・安心が無ければ患者の安全・安心はありません。患者の安全・安心が無ければ病院に患者は来ません。誤解を恐れずに言えば、私たちの職場である病院は「患者がいるから」なりたつのです。同時に、労働者(職員)がいるから病院の運営ができるということです。

病院当局は「病院があるから職員の生活がなりたつ」と言っていますが、労働者が働き、患者が来院・通院・入院しなければ病院なんて「何の意味もない」のです。

つまり、草津病院を『利益第一』から『安全第一』にする最大のチャンスがやってきたということなのです。病院の経営の事など考える必要などありません。職員と患者の安全・安心を第一に考えればいいのです(安全・安心な病院には自ずと患者が来ます)。分り易く言えば、患者がやって来れば、私たちの賃金は出せるのです。職場(病院)の『安全』をかちとる為に一致団結して闘いましょう！(2月24日)

●再度、草津病院について

草津病院支部の闘いが、だいぶん病院当局と体制内職員を追いつめているようですね。直接ビラ配りの時に反対意見を言うてくる職員はあまりいなかったので安全・安心について、職員は考えて、ゆれ動いているのだと思いました。

そして、手紙にもあった「職員の意見(注)」の一つ『信頼関係』についてですが、私はその職員の意見こそ『信頼関係』を壊すのだと思います。

理由は、病院の労務支配の中で職員の『信頼関係』は、私が働いていた時(2年前)には、もうすでにありませんでした。それと過重労働の中で患者との『信頼関係』は、(営利優先のために)殆どありませんでした。『信頼関係』が病院中に殆どなく、今回の重大事件の連続でより一層『信頼関係』はなくなったのです。

だから『信頼関係』を取り戻したり、壊さないようにしたいのであれば職場の安全を考える事こそ一番の問題ではないでしょうか？そこから目をそらさないで欲しい、と私はすべての職員に言いたいと思います。

【次ページに続く】

『中共会(なかともかい)NEWS』への投稿を募集します。職場の報告や意見などをお寄せ下さい。

→rentai-union@theia.ocn.ne.jp まで

【前ページから続く】

それと、その職員は、私のデッチあげ事件の事もあり「組合が信頼関係を壊した」と思っているのではないのでしょうか…。まあ、無反応よりか、反応してもらったほうが、私たちにとっては大事な事だと思いました。(2月24日)

(注)

2月22日の朝ピラで、以下のような意見を、ピラを配っていた仲間に言い残して、出勤して行った職員がいました。「あなた達の気持ちも解らないではないが、職員だけでなく患者にもピラを渡しているでしょう」「(病院外の人に患者か職員かの区別は)判断できないでしょう。私たちには判りますよ。患者にピラを渡して病院との『信頼関係』を壊すことは、患者の治療にとって重大な影響があると思いませんか！」

●組合員からの手紙

中山崇志様

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きますネ。その後、指の具合は如何ですか？私の方は、家族と討論しながらも昨年は11・4の東京集会に初参加。年間を通して労働学校を受講。青年の仲間との話し合いにも加わったり等々、かなり自分としては充実した内容盛り沢山の活動となりました。

お手紙でも心配して下さいって本当に有難うございました。なかなかお手紙も書けぬまま、3月には出所(本当に長い1年と2ヶ月余りでしたネ)です。

昨年末には親戚が亡くなり、年賀も失礼してしまって、それもお伝えできぬままで心苦しかったのですが、来月笑顔でお会い出来るので、今から待ち遠しいです。くれぐれも体調管理にお気を付けて下さいネ。(K)

●介護労働者からの投稿

昨年12月5日、広島市東区の終末医療施設「ホスピス・ナーシングホーム『クリーム』」で、入所者の寝たきりの女性(85歳)が焼死した事件で21歳の女性の派遣労働者(介護福祉士)が放火の疑いをかけられ、今年1月18日に逮捕されました。彼女は「殺すつもりはなかった。人間関係などのストレスがあったが、一言では言えない」と供述していると言います。

誰にでも、どこの事業所でも、今この時にでも起こりうることです。特に心が揺れ動き、外からのストレスに無防備と言って良い青年期の人たちにとっては人ごとではない！明日は我が身！ということではないでしょうか！ましてや個人病院付属施設への派遣労働では、なおさらです。

福祉に関わり45年の私は、介護保険が始まり福祉が金儲けの市場になり果て、GDPを1.5%引き上げるという事態になり危惧していたことが、やはり起こり始めたかという思いでいっぱいです。本来、福祉は金儲けの対象にはならないはずのものです。私に関わり始めた頃は福祉の仕事をやるといえば「何と物好きな人」と言われました。

今、思うのは認知症介護で「パーソン・センタード・メソッド」というやり方を提唱したトム・キッドウッドという人が『介護者が尊重されないなら、お年寄りが尊重される介護はできない』と言い切っていることです。

金儲けを第一として現場に利益追求を強制する経営者に対して、介護者・看護者がひとつになって、自分たちとお年寄りを尊重するように訴えていくこと。職場に団結を！これしかないと思います！みなさんのお考えはどうですか？是非お聞かせ下さい。 【安芸太田町在住の介護労働者より】

再稼働阻止！未来のために立ち上がろう！

3・11反原発福島行動'13へ結集しよう！

とき：3月11日(日)正午開場 1時30分開始 3時15分 デモ出発

ところ：福島県教育会館大ホール 主催／3・11反原発福島行動実行委員会